

食事からどれくらい
放射性物質を
摂っているのかしら…?



家庭の食事に含まれる 放射性物質の摂取量調査 を実施しています

コープでは今春、「家庭の食事からどれくらい放射性物質を摂取しているかわからない」との声をうけて、全国の生協と協力し約 250 家庭の食事調査を実施しました。コープかながわ・コープしずおか・市民生協やまなしからは公募の 29 家庭にご協力いただきました。

今年 3 月の 1 回目の調査では、
コープかながわ、コープしずおか、市民生協やまなしの
29 家庭の検体からは放射性ヨウ素、放射性セシウムの
検出はありませんでした。



説明会の様子

検査結果の詳細はユーコープホームページ
<http://www.ucoop.or.jp/> をご覧ください。

調査方法

各家庭から大人 1 人分の 2 日間のすべての
食事(間食・飲料含む)をご提供いただき、
放射性物質の摂取量を調査しました。



1 食分すべてを
密封袋に入れて



2 日間分を冷凍保管し、
検査機関に送付

日本生協連検査センターおよび
同レベルの検査が可能な
機関で検査を実施

食事提供者の「声」

さまざまな食材を使って作った毎日の家庭
料理が本当に安全であると精密な調査で
証明されたので、ほとんど心配する必要
はないと分かり、安心しました。

☺ コープかながわ
Nさん

どこの産地の食品でも利用していましたが、
全国調査の結果で市場に出まゐる食品は
安全だ、と確信したので、被災地の産物
でも安心して利用できます。

☺ コープしずおか
Sさん

不安はありつつも特に
気にして買い物はしていませんでしたが、
検出されなかったことで、
不安に思う必要はないと思いました。

☺ 市民生協やまなし
Sさん

食品中の放射性物質について経年変化を知り、広く組合員にお知らせすることが必要と考え、
現在 30 人の組合員の協力により 2 回目の放射性物質の摂取量調査を行っています。

第3回 放射性物質の摂取量調査 食事提供者を募集します

このような大規模調査は、組合員にご協力い
ただける生協ならではの取り組みです。
これからも、コープは組合員の安心のために、
日本生協連や全国の生協と協力して摂取量
調査に継続して取り組んでいきます。

お問合せ・お申込み

コープの商品活動参加申込みダイヤル

☎ 0120-553-379

月～金 9:30～17:00

募集締切

2012年

10月19日(金)

募集対象 高校生までの子どもがいる家庭で説明会に参加できる方

調査方法 2日分の朝食・昼食・夕食を各 1 食分多く作り(間食、飲料も含む)
1 食ずつ保存し、2 日間分がそろったら指定の検査機関に送付していただきます。
(飲食物提供費用として 6,000 円のお礼をいたします)

募集人数 コープかながわ・コープしずおか・市民生協やまなしの組合員 20～30 名
(応募者多数の場合は選考となります)

説明会 **11月1日(木)** コープしずおか本部 (JR 静岡駅徒歩 5 分)
11月6日(火) 市民生協やまなし本部 (甲府市落合町)
11月7日(水) コープかながわ本部 (組合員活動部: JR 新横浜駅徒歩 5 分)

このチラシに関する
お問い合わせ先

もしもしコープ ☎ 0120-473-002 月～金 9:30～17:00
土 9:30～16:00

ホームページで自主検査の結果などを公開しています [ユーコープ 検索 http://www.ucoop.or.jp/](http://www.ucoop.or.jp/) 2012年9月発行

組合員の皆さまへ

放射性物質問題への コープの対応について



安心して ご利用いただくために

コープは「商品を通して組合員のくらしと健康を守ること」を第一に、
組合員一人ひとりのくらしに貢献することを最大の使命としてきました。
より安心な食品の供給は組合員の願いであるとともに生産者の願い
です。これからも安心してご利用いただくために、食品への放射性
物質の影響について、コープは継続的に必要な検査と情報提供を進
めています。また、未来の「食」を担う日本の農畜水産物の産地を
応援していきます。

- 商品の放射能自主検査を実施しています
- 全国の生協と協力して家庭の食事に含まれる
放射性物質の摂取量調査を実施しています
- 組合員の皆さんに安心していただくために
わかりやすい情報提供を進めます

あなたにまっすぐ。
おうちCO-OP

コープは

国で定めた新しい基準値に対応した放射性物質自主検査を実施しています

組合員の皆さまに安心してご利用いただくために、社会的に関心の高い食品やコープの産地指定商品を中心に週40品目程度、放射能の自主検査をしています。国や地方自治体の幅広い検査結果を前提に、お届けする商品を再度検証する立場から行う自主検査で、コープで取り扱う食品の中から任意に選んだサンプルで実施しています。

2011年7月～2012年8月までに
2,700件を
超える自主検査を
実施しています

毎週約40品目の検査を
継続的に実施しています

これまでの検査で基準値を超えた商品はありませんでした。



コープの商品検査センターではゲルマニウム半導体核種分析装置を使用して食品中の残留放射性物質の検査をしています。

※ゲルマニウム半導体核種分析装置とは

食品中の放射性ヨウ素や放射性セシウムなど、ガンマ線を放出する放射性物質を精密に測定する機械です。外部の放射線を遮断するため、検出器は約10cmの厚さの鉛で覆われています。

自主検査の主な対象商品

- 公的検査で暫定規制値や基準値を超過したことがある産地や、その周辺地域で生産された商品
- コープの産直、産地指定などの商品 (米、味菜卵、はぐくみ鶏、茶美豚など)
- 乳幼児が摂取する食品 (子どもの摂取が多い食品、ベビー用の食品など)
- 組合員の摂取量が多い食品 (米、飲料水、牛乳、卵、野菜、肉など)
- 社会的に関心が高い食品

コープは1989年に放射能汚染食品・内部取り扱い暫定指標(自主基準)を定めましたが、この基準は今回の原発事故のような非常事態を想定したものではありません。現在は国の基準値に基づいて取り扱いを行っています。

国の基準値は、現在の科学的知見に基づいた妥当な数値と判断をし、コープが独自基準を持って評価することは、消費者の混乱や産地の風評被害を招く恐れがあると考えます。コープは組合員のくらしのために安全・安心な商品を安定して供給し続けます。

コープでは
原発事故に対応した国の
基準値に基づいて商品の
取り扱いを行っています

■コープの残留放射能自主検査の結果をお知らせいたします

コープでは、組合員の皆さまに安心してご利用いただくために、国や地方自治体の幅広い検査結果をもとに、供給する商品の一部を再度検証する立場で、自主検査を行っております。行政による放射性物質のモニタリング検査では、国の定めた放射性物質の基準値を超えた食品が流通しないよう出荷規制などの対応がとられています。コープはこの基準値を下回る商品をご提供しておりますので、引き続きご利用をお願いいたします。

放射能自主検査実績(2012/3/27～2012/8/27)

合計検査数	うち「乳児用食品」
880	42

<詳細内訳>

農産品						
大分類	米・穀・豆類とその加工品	野菜類とその加工品	果実類とその加工品	きのこ類とその加工品	茶類とその加工品	農産品その他と農産加工品その他
検査数	51	172	50	32	21	15
畜産品						
大分類	牛肉とその加工品	豚肉とその加工品	鶏肉とその加工品	乳とその加工品	卵とその加工品	畜産品その他と畜産加工品その他
検査数	15	36	43	185	50	3
水産品						
大分類	鮮魚とその加工品	魚卵とその加工品	貝とその加工品	海藻とその加工品	水産品その他と水産加工品その他	
検査数	149	5	13	18	2	
その他						
大分類	飲料水	飲料(無果汁など)	おせち・オードブル	非食品商品		
検査数	15	5	0	0		

食の安全について
わかりやすい
情報提供をすすめます

いつでも
チェック



自主検査結果のお知らせ



ユーコープのホームページ

これまでの検査結果を商品分類ごとに関連できます

ユーコープ 検索

ホームページアドレス <http://www.ucoop.or.jp/>



放射能に関するチラシを発行し、裏面に自主検査の結果を掲載しています。



掲示板またはサービスカウンターに自主検査結果を掲示しています。



随時、放射能などを含め食の安全についての情報を掲載しています。

放射能に関する 組合員学習会 を開催しています



リスクコミュニケーション委員会にて
放射線医学総合研究所 理事 明石真吾氏による講演 2011年10月

専門家を招き、放射能や食品安全に関する学習会や、リスクコミュニケーション委員会を開催しました。2012年8月までに計43回放射能に関する学習会を開催し、1,600名近い方が参加されました。

学習会では、科学的な根拠に基づいた放射能の基礎知識、放射性物質を含む食品の摂取による影響、政府の暫定規制値、コープの考え方などを紹介し、放射能を正しく知った上で、判断することの必要性を学びました。また、たくさんの地区・エリアで組合員が自主的に学習会を開催し、コープが講師派遣や会場の提供などの支援を行いました。



第2回コープしずおか学習会「食品安全情報の読みとぎ方」
講師 科学ライター 松永和紀氏 2011年11月